

新旧融合・共創で、常に進化する街、
「SDGs先進区」の実現を目指す

此花区将来ビジョン2027（案） （2024年度-2027年度）



此花区マスコットキャラクター
このはちゃん

此花区役所

もくじ

- 1 はじめに
- 2 此花区の現状と課題
- 3 めざす方向性
- 4 目標設定

1-1 はじめに

○此花区将来ビジョンとは

地域の皆様との対話やご意見などを基に、区長が此花区の基礎自治行政を総合的に推進していく上での中期的な理念として、区のめざすべき将来像と、その実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめ、区民の皆さまに明らかにするものです。

この「此花区将来ビジョン2027」では、令和6年度（2024年度）から令和9年度2027年度）までを計画期間として、区のめざす将来像「新旧融合・共創で、常に進化する街、「SDGs先進区」の実現に向けた、施策ごとの方向性や目標を示しています。

今後、このビジョンに沿って、区民・地域団体・企業などの皆様とともに取り組んでまいります。

○計画期間

「此花区将来ビジョン2027」は、区長任期（4年）との整合性の観点から令和6年度（2024年度）から令和9年度（2027年度）までの4年間を計画期間といたします。

○運営方針との関係について

運営方針は、将来ビジョンの年度ごとのアクションプランとして、毎年度策定します。
そのため、今後、運営方針は順次、改訂してまいります。

1-2 はじめに（つづき）

○市と区の関係について（市政運営の基本方針より要約）

大阪市では、市民・区民のみなさまに身近なところで自律的な基礎自治行政を行うため、区長に対し権限と財源の移譲を行い、区の特性を活かしたまちづくりを進めています。市民・区民のみなさまのニーズにきめ細かく応えられるよう、市民にもっとも身近な区政については、ニア・イズ・ベターを徹底し、区長の責任と権限のもと、地域の実情に即した特色ある施策を展開しています。

○官民連携の必要性について（新・市政改革プランより要約・一部改変）

今後、さらなる少子高齢化や生産年齢人口の減少などに伴い、より効果的・効率的な行財政運営が求められます。また、こうした状況においても最適な公共サービスを効果的・効率的に提供する取組を進め、住民満足度の向上を図っていく必要があります。

また、区民や地域のみなさまのニーズがますます多様化していくなかで公共サービスの提供を全て行政機関が担っていくのではなく、地域や民間のみなさまの活力を活かした事業手法の発想が求められます。

此花区では、官民連携の発想をさらに前に推し進め、企業にとってCSRという観点だけでなく、企業にとっては新たな事業チャンスという観点を含めて、アイデア段階から協議し、実行に結び付けていく、「新旧融合・共創」の推進によるSDGs促進を目指します。

2 此花区の現状と課題

此花区は2025年、大阪・関西万博が区内で開催されるとともに、区制100周年を迎えます。万博の目的のひとつは「SDGs達成への貢献」です。

また、此花区は近年、人口は約6.5万人（※1）と横ばいで推移しているが、年齢別人口をみると50歳では約1,100人、20歳では約650人、0歳では約400人（※2）となっており、現状のままでは将来、著しい人口減少となり、空き家の増加、小学校の再編整備（統合）、飲食店をはじめとした商店の採算悪化など、好ましくない影響が予想されます。

そこで此花区は区民のみならず民間企業などとの対話を通じて、それぞれが保有する知識やノウハウを活用して、此花区に新たな価値を共に創る活動を促進し、「住むなら此花区！」「SDGs先進区」といわれる街を目標に、人口減少に歯止めをかけることが必要です。

そのための主なテーマは、新たな魅力づくり（リゾート、アート等）、健康、環境とし、区民のみならず一人ひとりがSDGsを推進していくことで、万博機運盛り上げにもつなげてまいります。

（※1） 出典：大阪市市民局 「住民基本台帳人口・外国人人口」 令和4～6年、各年3月末時点

（※2） 出典：大阪市市民局 「住民基本台帳人口・外国人人口」 令和6年3月末時点

3-1 めざす方向性（長期ビジョン）

- “2050年”を見据えた長期的な考え方（長期ビジョン）

「此花で良い」ではなく「此花が良い」と、“選択”される街
ウェルビーイングな街 KONOHANA

概要

イメージ①「にぎわい」

- ・舞洲・常吉エリアのエリアとしての活性化・ブランディングをはじめとして、関西No1リゾートエリアとしての湾岸エリアの一層の魅力化を目指す。
- ・西九条駅エリアを関西No1リゾートエリアの玄関口、大阪の「ニシ」の拠点にふさわしい街にするとともに、西九条駅から区内中心部への誘客を図る。

イメージ②「うるおい」

- ・区内のエリアごとに高層タワーマンションから町家まで、自らのライフスタイルで選択し、高いQOL（生活の質）を実現できる街を目指す。
- ・商店街から高感度な店舗までさまざまな業態があり、生活に潤いのある街を目指す。

イメージ③「やすらぎ」

- ・区内に身近に芸術やスポーツ等にふれることができ、住み慣れた地域とともに生きともに暮らすことができる街を目指す。
- ・年齢や障がいや国籍にかかわらず、共に助け合い安心安全に暮らすことができる優しい街を目指す。

○ウェルビーイングについて

ウェルビーイングとは、心も身体も社会的にも「満たされた状態」、すなわち実感としての幸せ、心の豊かさなどを表す言葉で、世界保健機関（WHO）憲章における「健康」の定義で登場する表現です。

（原文）“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

（公益社団法人日本WHO協会による和訳）健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

3-2 めざす方向性 (エリア戦略)

○ 長期ビジョンのもとでの「此花区将来ビジョン2027」にかかるエリア戦略 (イメージ)

湾岸リゾートエリアと区民 (住居中心エリア) との心理的距離感の縮小化
(利用促進、区のブランドイメージ向上)

淀川左岸サイクルロード
正蓮寺川公園の魅力化 向上 (アート他)

区内全域の回遊促進 → 交通アクセスの需要増大
(西九条~アート~飲食店・商店街~USJ・舞洲・夢洲エリア)

①西九条駅周辺
エリア
関西No1リゾートエリアへの玄関口としての街の充実

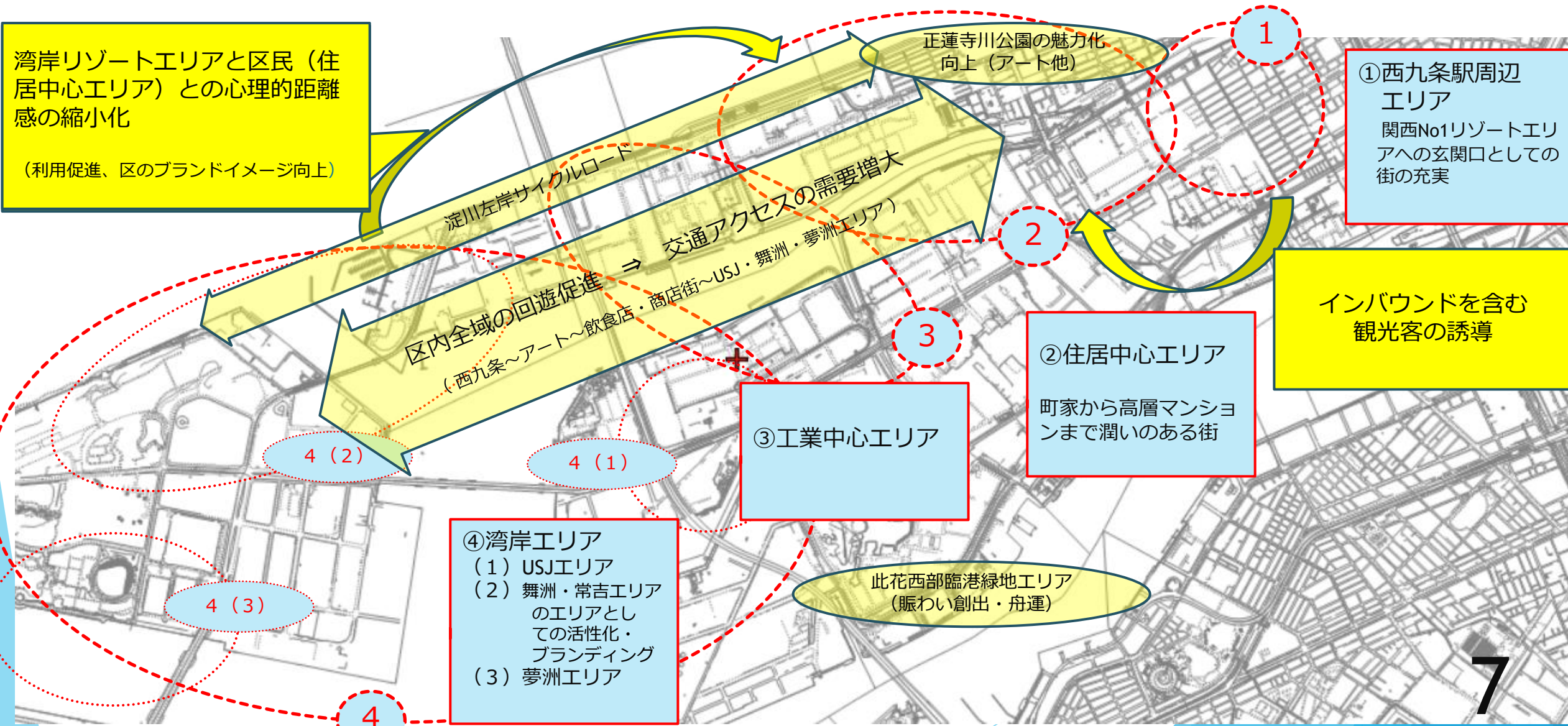
インバウンドを含む観光客の誘導

②住居中心エリア
町家から高層マンションまで潤いのある街

③工業中心エリア

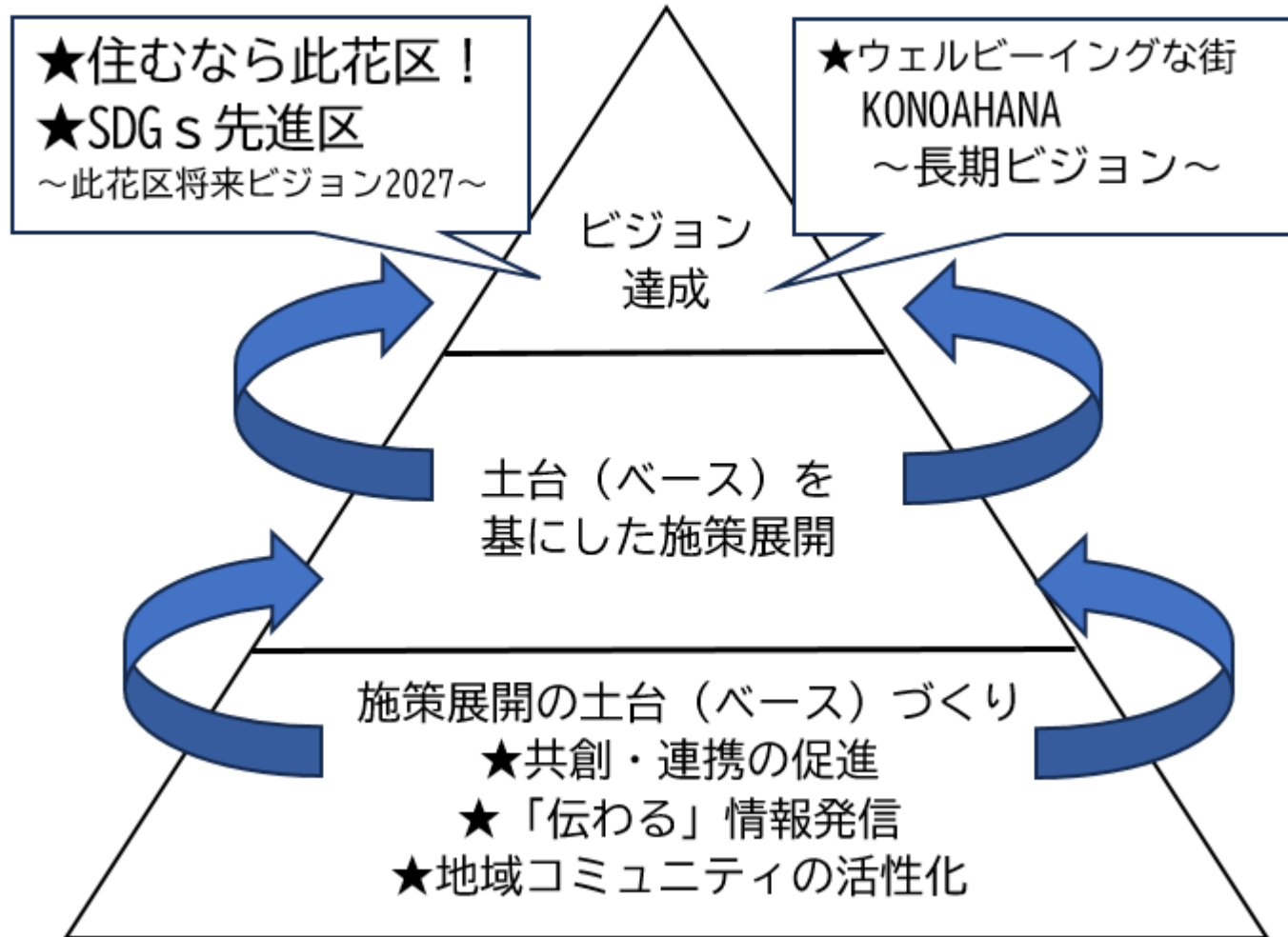
此花西部臨港緑地エリア (賑わい創出・舟運)

④湾岸エリア
(1) USJエリア
(2) 舞洲・常吉エリアのエリアとしての活性化・ブランディング
(3) 夢洲エリア



3-3 めざす方向性（体系）

○課題・ビジョンに基づいた方向性の体系（イメージ）



「此花区将来ビジョン2027」に基づく施策展開にあたり、まず、あらゆる施策展開に共通する土台として、

「共創・連携の促進」
「伝わる」情報発信
「地域コミュニティの活性化」

を設定します。

そのうえで、各種施策を展開していくことによって区の魅力向上などを図り、「住むなら此花区！」「SDGs先進区」と言われる街を目指します。

4-1 目標設定にあたって

= EBPMの実践 =

「此花区将来ビジョン」を実行に移していくため、本ビジョンの目標設定において「行動の方向性」を示し、毎年度策定する「運営方針」との連携を進めます。

また「運営方針」においては、目標に応じて戦略や方策を示すとともに目標到達度が評価できるようKPI等の設定を進めます。

このことによりPDCAを回転させるとともにEBPMに取り組んでまいります。併せて事業進捗度（KPI・アウトカム等）の可視化にも努めてまいります。

○PDCAとは

計画（Plan）、実施（Do）、点検（Check）及び改善（Action）を繰り返すマネジメントサイクル（PDCAサイクル）であり、成果を意識した区政運営の実現に向けて、施策や事業を適切かつ着実に推進するための基本的な考え方です。

○KPIとは

重要業績評価指標（Key Performance Indicator）であり、組織の目標を達成するための重要な業績評価の指標を意味し、達成状況を定点観測することで、目標達成に向けた組織のパフォーマンスの動向を把握できるようになります。

○EBPMとは

EBPM（Evidence Based Policy Making）は「証拠に基づく政策立案」であり、「政策の企画立案をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで政策効果の測定に重要な関連を持つ情報やデータ（エビデンス）に基づくものとする」と（平成30年度内閣府取組方針）とされています。

4-2 目標設定

4-2-1 施策展開の土台（ベース）づくり

- (1) 共創・連携の促進 . . . P11
- (2) 「伝わる」情報発信 . . . P12
- (3) 地域コミュニティの活性化 . . . P13

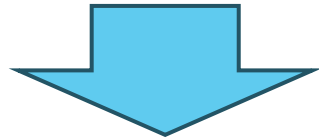
4-2-2 土台（ベース）に基づく重点施策

- (1) 区内の活性化及び回遊促進 . . . P14
- (2) 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街 . . . P15
- (3) 区民の健康の維持・向上 . . . P16
- (4) 子育て環境の向上 . . . P17

4-2-1 (1) 共創・連携の促進

【 目指す状態 】

民間企業等との共創・連携を促進し、それぞれが保有する知識やノウハウを活用した新たな価値を共に創り出し、さまざまな分野において課題を解決する活動が官民共創・民民共創により実施されている状態。



【 行動の方向性 】

- 「住むなら此花区！」と思える街の実現に向け、アイデア段階から実行まで「官民共創」や「民民共創」により解決する官民共創プラットフォーム「ウェルビーイング此花」を立ち上げ、此花区に新たな価値を創造する。
- 既存事業において「官民共創」「官民連携」を積極的に採り入れ、事業の活性化を図る。
(上記内容実行においては、区役所職員の「常に進化する」意識向上を図るとともに、行動力を向上させる)

11 住み続けられる
まちづくりを



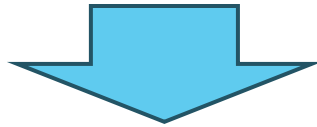
17 パートナーシップで
目標を達成しよう



4-2-1 (2) 「伝わる」情報発信

【 目指す状態 】

情報発信において「伝える」のではなく「伝わる」へと転換し、同時にターゲットごとに効果的な媒体選定を行うことで、あらゆる世代の区民が容易に必要な情報を収集できる状態。



【 行動の方向性 】

- 様々な媒体での情報を充実させるとともに、特に対象年齢層が広いLINEを利用する。
(LINEの友だち数 区人口の10%)
- 発信においては、「3秒で情報の概要がわかる」ことを徹底する。
- LINEアンケートにより、区民からの事業評価を迅速に得ることでPDCAを回転させるとともに、EBPMにも取り組む。
- スマートフォンがあれば区が発信する情報がすべて収集できるようにする。
- 広報誌においては、単なるイベント案内にとどまらず、訴求したいことが伝わるように工夫する。



4-2-1 (3) 地域コミュニティの活性化

【 目指す状態 】

地域が自ら、地域を取り巻く社会環境の変化など複雑多様化する地域課題に対応でき、日常および非日常時において共助が成立し、暮らしやすい地域を創り出していくことができる状態。



【 行動の方向性 】

- ・「大阪市町会加入促進戦略」に基づき、「此花区町会加入促進アクションプラン」を策定し、町会加入率向上に向け、地域とともに取り組む。
- ・地域団体の担い手不足、住民のニーズの変化等に対応するため、地域団体が行動方針等の変更のニーズがある場合は、共に取り組む。
- ・地域の担い手不足等に対応するため、企業連携やICT化推進に地域団体とともに取り組む。

11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナシップで目標を達成しよう

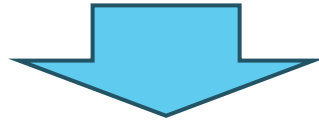


4-2-2 (1) 区内の活性化と回遊促進

【 目指す状態 】

此花区内のそれぞれの地域が活性化され魅力があり、同時に交通アクセス充実の方向性が前向きに検討され、区内回遊が促進されている状態。

此花区は「住みたい街」として人気の地域であり、結果として「訪れたい街」でもある状態。



【 行動の方向性 】

- ・舞洲・常吉エリアのエリアとしての活性化・ブランディング、各湾岸エリアの連携を「官民共創」および各局との連携で推進し、湾岸エリアを一層魅力化する。このことにより、此花区を「住みたい街」として人気の地域とするとともに、「訪れたい街」にする。
- ・西九条駅を、関西No1リゾートエリアへ玄関口として位置づけ、西九条駅エリアの街の充実を図るとともに、西九条駅からインバウンドなどの観光客を区内スポットに誘導する。
- ・正蓮寺川公園の延伸を確実に進めるとともに、アート等による魅力向上を図ることで、正蓮寺川公園が此花区の象徴として区民が誇れるものにする。

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



4-2-2 (2) 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街

【 目指す状態 】

- ①災害が発生又は発生する恐れがある場合に、全ての区民が自助・共助・公助により適切に避難ができる状態。
- ②「気にかける」地域づくりが実現し、誰もが安心して生活できる状態 ～気にかける つながる 支えあう～。
- ③街がきれいであり、区民や区内企業の環境問題への取組が進んでいる状態。



【 行動の方向性 】

- ①・要支援者を対象に災害時の支援者選定を促し、支援者の選定が困難な方には、地域や事業者等に支援協力を依頼するなどにより、個別避難計画の策定を100%とする。
 - ・災害時等に、自分自身がとるべき行動を事前に決め、近隣住民との連携を進めるなどにより、安全かつ迅速に避難行動計画を作成できるよう支援するとともに、適切な情報発信を行う。
- ②・区役所と地域・団体が協働で、各団体、地域への活動について周知・協力する体制を構築することで、誰一人取り残さない、安心して暮らせる地域を形成する。
 - ・支援を必要とする対象者を掘り起こして適切な支援につなげるとともに、日々の見守りを通じて異変を早期に発見するため、見守りを行う個人（ボランティアの確保・育成）や団体（協力の要請、民間企業との共創）を増やし、誰もが安心して生活できるよう好循環を構築する。
- ③街の美化活動や環境問題に取り組むことを可視化し、より多くの区民、区内企業の参加を促す。

3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナースHIPで目標を達成しよう



4-2-2 (3) 区民の健康の維持・向上

【 目指す状態 】

区民及び区内事業者のヘルスリテラシーが向上するとともに、健康維持・増進への取組が大阪でトップレベルである状態。



【 行動の方向性 】

- ① がん検診はじめ、検診(健診)受診率向上について官民共創で取り組み、大阪市トップクラスを目指す。
- ② 官民共創で、区民の生活習慣病等の数値改善を図る。
- ③ 区内事業者に健康経営（従業員の健康、企業の健康、地域の健康）の推進を図る。

3 すべての人に健康と福祉を



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナーシップで目標を達成しよう



4-2-2 (4) 子育て環境の向上

【 目指す状態 】

- ①区内の全児童・生徒が自ら課題解決に取り組み、自己肯定感が高い状態。
- ②すべての子どもが適切な支援のもと、虐待を受けることなく、いのちを輝かせ成長できている状態。



【 行動の方向性 】

- ①・さまざまなイベントへのSTEAM教育（※）の要素の取込み、キャリア教育推進等により課題設定・解決能力の向上を図り、子どもたち一人ひとりの個性や創造力を伸ばし育む。
 - ・「外国につながる子ども」について教員、職員が理解を深め、学校生活への適応を支援する。
- ②・虐待についての知識・理解の普及啓発を行うとともに、学校園や保育所、母子保健などの関係機関や専門職と連携し、支援が必要な児童とその保護者に対して適切な支援を実施する。
 - ・こども食堂や子ども・子育てプラザなど、子どもが安心して過ごせる「居場所」の確保や周知を進め、子ども自らがかけがえのない存在として肯定的に感じられるよう、「居場所」への必要な支援を行う。
 - ・不登校のこどもやヤングケアラー、ひとり親家庭に対し、それぞれが抱える課題に寄り添った支援に取り組む。

※STEAM（スティーム）教育とは「科学（Science）」「技術（Technology）」「工学（Engineering）」「芸術（Art）」「数学（Mathematics）」の5つの頭文字からなる造語で、論理的思考力、課題解決力、創造力を養成する教育理念のことです。

3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナリシップで目標を達成しよう





此花区マスコットキャラクター
このはちゃん

此花区役所